

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 定時総会 (5/11 コジマホールディングス西区民文化センター) 報告
2. クライミングスクール (5/12 三倉岳) 報告
3. トレッキングスクール (5/19 木の宗山～松笠山) 報告
4. ハイカーの為のロープワーク講習会 (5/26 三篠公民館) 報告
5. 岳連短信 (寄贈御礼、7月の行事予定、ほか)

1. 定時総会報告

(事務局 西部 伸也)

日時: 5/11(土) 15:00～16:30

場所: コジマホールディングス西区民文化センター

出席者26名 (広島山岳会・横山正雄、広島山稜会・榎田繁、広島やまびこ会・加地清高、福山山岳会/理事/副会長・大田祐介、広島県庁山の会/理事・松井秀樹、マツダ親和会山岳部・弘中和明、広島大学の会/理事/副会長・後藤裕司、広島修道大学山岳部/理事・新山まゆみ、タンネンクラブ/事務局・西部伸也、広島三峰会/理事・宮本由美子、広島登山研究所/理事/副会長・松島宏、FCC・蒲谷和弘、安藤縦走会・安藤和己、自然と文学愛好会広島/理事長・豊田和司、個人会員・堀内輝章、名誉会長・京才昭、理事/会長・山田雅昭、同/副会長・村井仁、同/同・佐藤建、同・森本覚、同・三村孝治、同・荻田純代、監事・菊間秀樹、新監事予定・草光康則、新理事予定・松本正和、事務局・杉本陽二)

懇親会17:00～ 横川食堂 14名 (弘中、後藤、新山、松島、蒲谷、豊田、京才、山田、村井、森本、三村、菊間、草光、松本)

5月11日(土)、例年の会場であったホテルチューリッヒ東方2001が廃業となり、連盟事務所近くのコジマホールディングス西区民文化センターにおいて今年度定時総会が開催されました。

出席者は各所属団体代表14名・個人会員1名・団体代表以外の名誉役員1名・理事6名・監事1名・事務局1名・新役員予定者2名の計26名で、委任状も含めて出席者の議決権個数は201(議決権総数は229)でしたので、総会は十分に成立しました。

1号議案の昨年度事業報告については、配布された総会資料を基に事務局ほか各部部长から説明がありました。2020年から3年に渡るコロナによる多くの事業中止ののち、コロナが第5類に移行したことで、コロナ禍以前に近い事業復活がありました。ただし、比婆山スカイランは2023年の第30回をもって終了、山岳SCセミナーも2023年をもって終了することになり、新イベントの実施に向けて検討が進められていることが報告されました。

続けて2号議案の昨年度決算報告については事務局から説明を行いました。JMCSAの赤字問題に関わっての基金に連盟から300万円拠出することになりましたが、貸付金となるその金額を除けば、連盟の財務状況は例年通りで、2022年度と同じく約97万円の財産減少でした。

3号議案の今年度事業計画については理事長から説明がありました。おおまかな事業方針は登山とスポーツクライミングの両立というJMCSA(日本山岳・スポーツクライミング協会)の方針を従来通り踏襲し個別の重点項目としては、スポーツクライミングの強化/PR・安全登山の啓発/推進・県民ハイキング

の継続実施・安定した財政基盤を目指すことのほか、ひろしま「山の日」県民の集いへの参画も掲げられました。また、安全登山の啓発/推進においては、警察・消防との連携強化も掲げられました。事業計画の詳細については、村井副会長作成の一覧表のとおりです。

4号議案の**今年度予算案**では、赤字幅（財産減少）を抑えるべく予算建てしましたが、依然として40万円弱の赤字が見込まれることから、今後の財務改善の方策を探るという前提で、3号議案の事業計画共々承認されました。

最後に、今年度は**役員改選**の年ではなかったものの、野々村監事の死去や理事の退任希望に伴い、1名の新監事と3名の新理事選出が提案され、これも承認されました。退任および新選出の監事・理事の方は以下の通りです。（敬称略）

退任：堀内輝章、近藤道明

新任：（監事）草光康則、（理事）松本正和、田中勲、勝田直樹



（定時総会の様子。荻田理事より）

2. クライミングスクール報告

（指導部長 森本 覚）

第2回 5/12(日)

山城：三倉岳休憩所

人数：20名（スタッフ含）

雨天の為、講習場所を三倉岳に変更しました。6名2班でラッペル班は足絡みの一時停止とミュールノッ

トでの一時停止及びフリクションノットでのバックアップ等を講習しました。セカンドビレイ班は天応銀座尾根 1P を想定したムンタービレイとガイドモードでのビレイ及びビレイポイント構築等を講習しました。午前午後で班を交代して行いました。

（指導部 塩田 徹）

【感想文】

（受講生 山本 うた子）

クライミングスクール2回目は雨予報という事で、呉天応から三倉岳に講習場所が変更になりました。当日は、三倉岳の管理棟でロープワーク講習となりスクール生は2グループに分かれ、小屋の梁を使つてのロープワーク練習をするグループと柱などを利用しマルチピッチクライミングのロープワーク練習をするグループと、午前午後と交替で行いました。

小屋の梁にロープを渡し、ビレイデバイスとロープを握りこんでそのままロープ2本をカラビナの下側からロープを引き出しミュールノットを作り、ビレイデバイスの上でオーバーハンドノットで結ぶという懸垂下降の一時停止のやり方、60cmのスリングを使いフリクションヒッチ等をセットする懸垂下降のバックアップのやり方など教わりました。なかなか手順が覚えられず、当日のパートナーの方にロープワーク中の動画を撮らせてもらい自宅で何度も見返しています。

マルチピッチクライミングのロープワーク練習では、インラインエイトノットを作り、環付きカラビナをかけてロープをいっぱいまで引き上げながら、ムンターヒッチでセカンドクライマーをビレイする。一連の流れは理解できてもインラインエイトノットの長さを決めたり引き上げたロープを振り分けたりも上手くできなかったです。確実にスピーディーなロープワークが実践で行えるように練習していきたいと思っています。

覚えることが多く、手先の不器用な私が上手くロープを使いこなせるようになるか不安もありますが、今はロープワークを覚えることが楽しいです。結び方とその役割を理解し感覚的にサッと結ぶことができるように、反復練習を繰り返して行きたいと思っています。

今回のような雨天の中、屋内でも充実したロープワークを学べたことを大変有難く思っております。スタッフの皆様、引き続きよろしくお願いいたします。

(受講生 高橋 和仁)

天応で予定されていた第2回目のスクールですが、週間予報ではピンポイントで雨予報、日が経つにつれて降水確率は上昇、前日には100%の大雨予想、当日はもちろん雨となってしまう、残念ながら岩は触れず三倉岳でのロープワークを中心とした講習となりました。ご厚意で管理棟(休憩所)を借用させて頂いての講習となり、2班に分かれ、主にラッペルとマルチピッチセカンドクライマーのビレイを午前と午後交代で講習を受けました。

今年は2年生ということもあり、講習内容、用語など初めてばかりだった昨年に比べ、新たに学ぶこと(単に忘れていたこともあり?)、復習すること、を落ち着いて学ぶことができました。疑問点や確認したかった点なども教えて頂き、質問ができることに喜びを感じました。(昨年は疑問点すらわからない状態。。。)

私達の班は午前中、2人1組になって小屋の梁に渡したロープを使ってのラッペル練習です。ラッペル中の途中停止を想定し、足へのロープの巻付けとミュールノットでの停止、バックアップを使った停止・下降をほぼ各2回行いました。クライミング練習時にはなかなか使うチャンスは無いと思いますが、いざとなった時に直ぐに使えるよう、定期的に復習しておかねばと思いました。

その後、昼休憩までの時間でインラインエイト、もやい結びの練習をロープ1本だけでなく、2本使いでも行いました。ロープが2本になると、???となる場面もあり、ロープワークは常日頃からの積み重ねが重要と改めて感じました。それと、万が一ATCを落としてしまった状態でラッペルしなければならない時はカラビナを使ってムンターで下降する方法も参考として教えて頂き、知識の幅が少しだけ広がったと思いました。

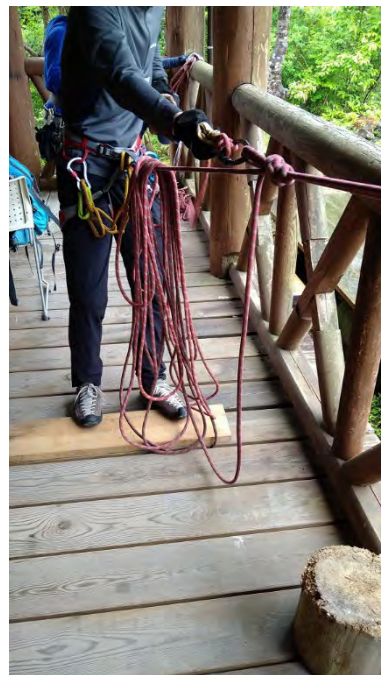
午後からは、マルチピッチ登攀を想定したリード

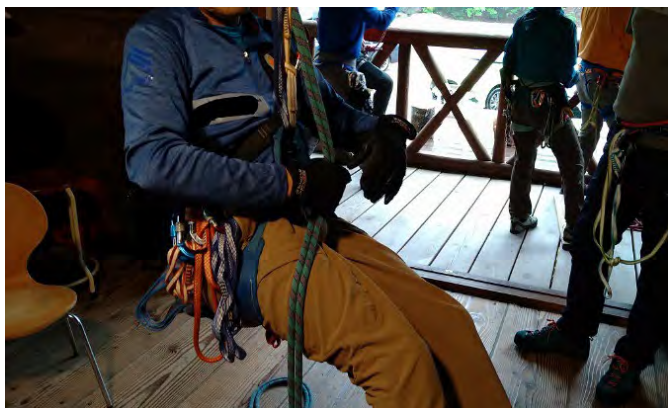
にて1ピッチ到達後のセカンドクライマーのビレイ方法を中心に小屋のデッキを使つての講習です。昨年一通りは教えて頂いていたので、やるべきこと、ポイントがスーッと頭に入ってきて戸惑うことなく進めることができました。これをいかにミスなく素早くやるかが今後の課題ということになるのかなと思います。昨年と少し違う点は、セルフビレイを支点のカラビナで取るか、ダブルロープのインラインエイトで取るかであり、今回はロープ繰り出し量をビレイ位置に合わせやすいだろうということでダブルロープのインラインエイトで行いました。その後、支点構築のための流動分散と固定分散を教えて頂き、シュチュエーションにより長所・短所があることを学びました。今後のスクールや練習で支点構築方法を意識して観察、確認し、理論だけでなく、実戦で経験を積んでいければと思います。

そして、あっという間にスクール終了時間となり、体は疲れませんでした。頭がパンパンとなる疲労感の中、次回は雨が降らないことを祈りながら雨足がさらに強くなるなか家路に就きました。

毎回懇切丁寧にご指導くださるスタッフの皆様、まだ交流できていない方もいらっしゃいますが一緒に受講するスクール生の皆様、引き続き宜しくお願い致します。

(写真提供 塩田)





3. トレッキングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第 2 回 5/19(日)

山城：木の宗山～松笠山

人数：12 名 (スタッフ含)

4/25(木)三篠公民館にて第 2 回目の机上講習をおこない山行計画の作成方法と天気図について講習しました。5/19(日)第 2 回目の実技講習は JR 上深川駅集合で木の宗山から松笠山に登り JR 戸坂駅で解散しました。今回は 10kg の歩荷とクロスベアリングの講習をおこないました。(森本)

【感想文】

(受講生 山口 亜由美)

トレッキングスクール実技講習の第 2 回目テーマは「次は 15 km を歩いてみよう!」。登山経験がさほど無い私には目的地の多くが未踏の地。それぞれの実技講習がどの様なものかをイメージする手掛かりは目的地の上に記載されたテーマだけ。あいにく第 1 回目の実技講習と第 2 回目の机上講習を欠席したので追加で得た知識も無い。

そんなことから、まず、メンバーから送られてきた登山計画の目的を見て驚く。「10kg のザックで 15km 歩く」・・・第 1 回目から距離が延びるだけではないのか!

とはいえ、服装も装備もこの日のために用意した物ばかり。準備をされていて楽しくない訳がない。

迎えた当日は、受講生 6 名にスタッフ 6 名といった贅沢な布陣。

登山口で準備運動を終えると、登山ルートを確認するために地図を広げるが、持ってきたものはどこか違う(らしい)。加えて、YAMAP でのログの取り方がわからない。私の行く手に暗雲が立ち込めるが、地図はスタッフが用意して下さっていた予備を頂き、YAMAP は事前に登山ルートを入力しておくとのだと教わった。

第 1 回目の実技講習の復習として、歩行技術と自分の立ち位置からの目的地の方角を割り出すコンパスの使い方を学んで、登山道へと入る。

(私には)先の長い山行と重い歩荷、初めて歩く登山道。ひたすら体の使い方に意識を向けるも、下りが上手く歩けない。最初の休憩で非常食と勘違いしていた「行動食」の意味を実感する。道中、先輩諸氏に体の使い方を教わりつつも自分の足元以外を見る余裕が持てない。中盤頃に脚が疲れてくると、実技講習は正に訓練(というよりは、私には修行)であることをひしひしと感じ始める。「まだ 2 時間も歩くのか・・・」と思う頃には、一步踏み出す毎に「このスクールを修了できるだろうか?」とか「明日、仕事に行けるのか?」という自問が湧き起こる。終盤には太腿の筋肉はパンパン、膝が笑うとはこのこと!それでも不思議と笑顔で完歩できたのは、頼もしい同行者がいたからで感謝の念が尽きない。

それだけに、自宅最寄り駅から一人になった後、歩いて自宅に帰りつける自信がなかったことを白状しておく。

今回の実技講習で新たに学んだコンパスの使い方はクロスベアリング(2点交差法)。コンパスさばきもたどたどしく、地図も読み慣れないので、なぜか決まって 10°ズレた。初の実技講習参加で、改善すべき点を山ほど学んだが、これも次回持ち越しの課題となった。

(次頁写真提供 久保田 征治)



登山届の提出の必要性について説明をして頂きました。それを受けてスマホを使用したデジタル登山届「コンパス EX」の基本説明を行いました。後半は、靴ひもの結び方をはじめターフを張る時に便利なロープの結び方などを講習しました。天気も良いので打越公園に移動して実際に張ってみました。(森本)

【感想文】

(受講生 広島大学ワグナーフォーゲル部 宮川 晴樹)

今回は講習会に参加させていただきありがとうございました。ロープの結び方や登山届の出し方を詳しく教わることができてとても貴重な講習会になりました。ロープの結び方に苦戦しているときには一人一人わかるまで説明していただき今回ならったことはとても身についたと思います。わたしたちはまだ本格的に山にのぼったことがなかったので想像ができなかったのですが、実際に習ったばかりの結び方を使い緊急用のテントなどを組み立てられる様子を見てすごく驚きました。特に印象に残ったのはクローブヒッチという結び方です。こんな簡単な結び方でシートなどをくっつけられると知り、あらためて知識の有無によって山を登る際の方法が変わってくると感じました。今回の講習会で習ったことを持ち帰るだけではなく、部内で伝達し部全体で安全な登山を行っていきます。今後も他の講習会があれば積極的に参加させていただきたいです。

(受講生 広島大学ワグナーフォーゲル部 浜崎 瑛)

先月、ハイカーの為の講習会を開催して下さり誠にありがとうございました。

講習会では、主に山での事故を早急に把握するための対策やロープの安全な結び方を学ばせていただきました。

山での事故を防ぐため、コンパスというアプリで登山前の登山計画や緊急連絡先を他者と共有し、警察とも連携することで、即座に対応ができるというシステムは大変効率的だと感じました。また、ロープワークでは結びの仕方だけでなく、どの状況で必要になるか、なぜその結びになるかという知識も得

4. ハイカーの為のロープワーク講習会報告

(指導部長 森本 覚)

5/26(日) 人数：18名(スタッフ含)

三篠公民館にて「ハイカーの為のロープワーク講習会」を実施しました。はじめに、村井副会長による

られました。

しかし、改善すべき点があるかと思われます。講習の内容は十分ですが、どうしても参加人数が少なく、多くの人にこの知識を啓蒙できないことです。また、私は広島大学のワンダーフォーゲル部に所属していますが、後日部員に説明するのに少々難しい面があります。口頭で伝えるには時間が足りそうにないのと、全て頭に入れるのは不可能かと思われます。従って、オンラインでの講習や動画の公開などを検討してみてもはいかがでしょうか。動画であれば何回も再生できるのに加え、多くの人に宣伝でき、動画を視聴した人がより連盟の情報やサービスにアクセスしやすくなると思います。

(写真提供 久保田)



6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

- 5/17 三原山の会『筆影』No. 531 (6月号)
(5/20) 広島山稜会『峠通信』779 (5月号)
5/27 福山山岳会『会報』6月号
(6/12) 広島やまびこ会『やまびこ』811 (6月号)
5/28『中信高校山岳部かわらばん』742

2. 7月の行事予定

- 7/5(金)～7(日) 国スポ中国ブロック予選 (松江市)
7/28(日) 沢登り研修会 (犬戻峡)

3. 自然保護研修 (4/21 比婆山登山道整備)

写真が三村理事より寄せられましたので紹介します。参加者の皆様、ご苦労様でした。



編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで惠送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。